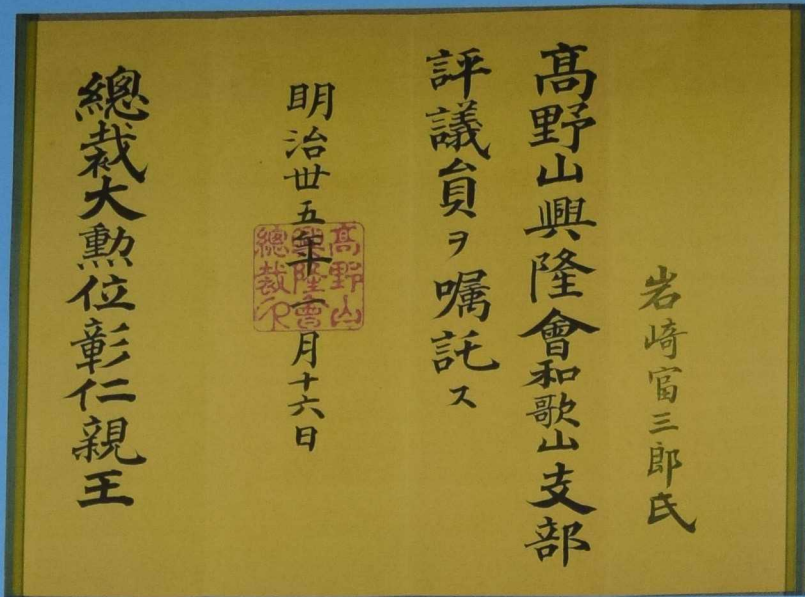


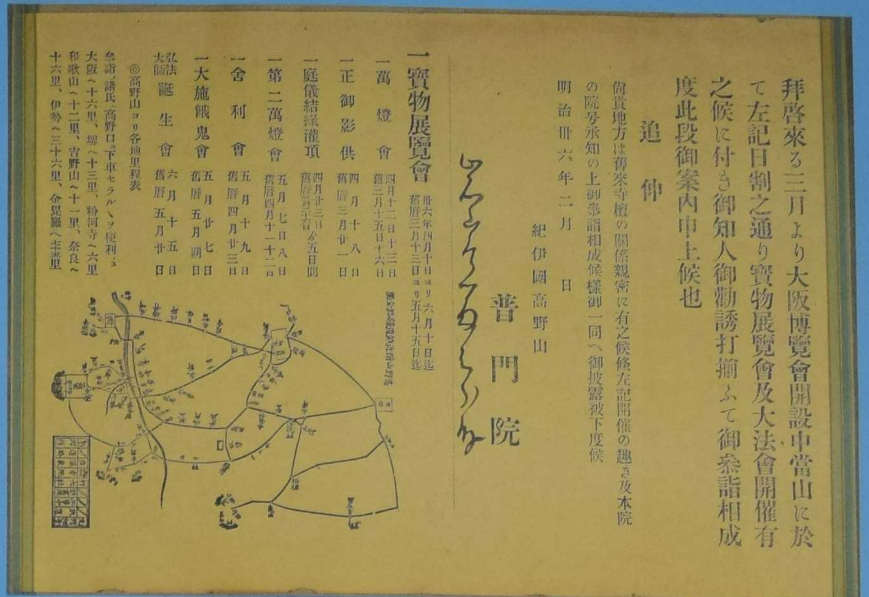
法会と宝物展覧会



文書番号 846-16-1
〔高野山興隆會和歌山支部評議員囑託につき委囑証〕
明治 35 年（1902）1 月 16 日 差出：總裁大勲位彰仁親王 宛先：岩崎富三郎

明治 35 年（1902）、当時岩崎家の当主で紀三井寺村（現三葛・紀三井寺・内原・布引・毛見）の村長でもあった富三郎は、高野山興隆會和歌山支部評議員に任じられます。

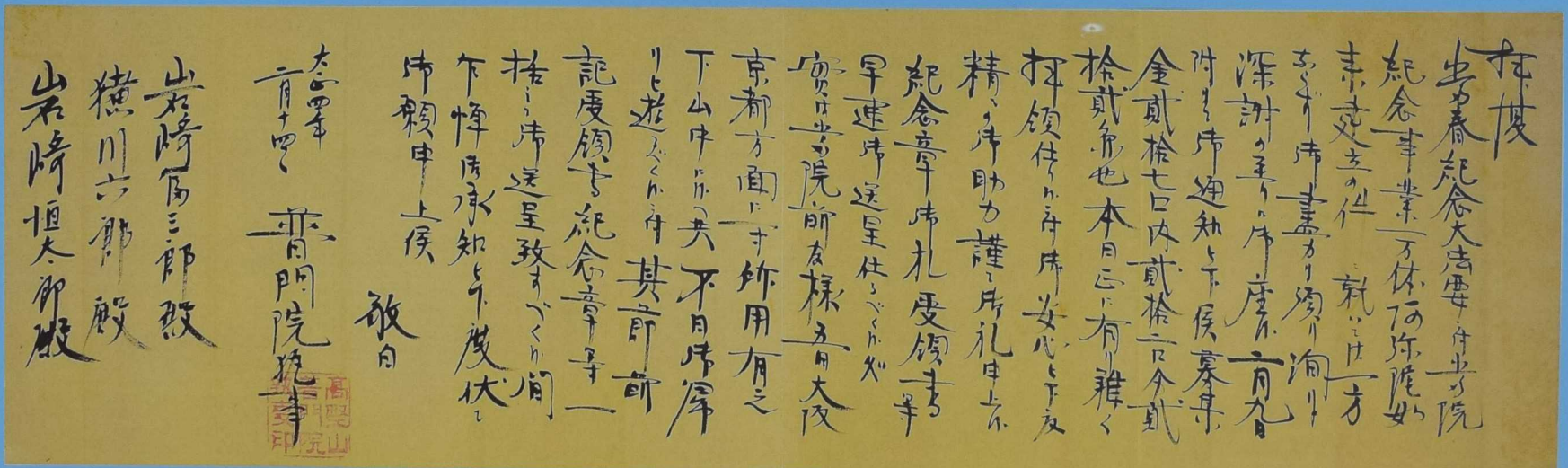
興隆會は、小松宮彰仁親王を總裁とし、政界の重鎮らをおもな役員として明治 32 年（1899）に設立されました。その目的は、高野山の建造物修理再興、学校の創立、布教の拡大、法会法談の厳修、宝物館建設などでした。



文書番号 5355
〔大阪博覧會開設中、当山にて宝物展覧會及び大法會開催につき通知〕
明治 36 年（1903）2 月 差出：紀伊國高野山普門院 宛先：岩崎富三郎

明治 36 年（1903）3 月から大阪で第 5 回内国勸業博覧會を開設している間、高野山では宝物展覧會と大法會を開催する旨を記した案内状です。高野山別格本山の普門院は、天長元年（824）の建立と伝えられ、普賢院と同様、途中火災に遭いながらも現在まで続く寺院・宿坊です。

国内で一大行事があれば高野山も行事を催し、参詣者を呼び込みました。明治 28 年（1895）、京都で平安遷都千百年紀念祭が挙行された折にも、高野山では法会と宝物展覧會を開催しています。

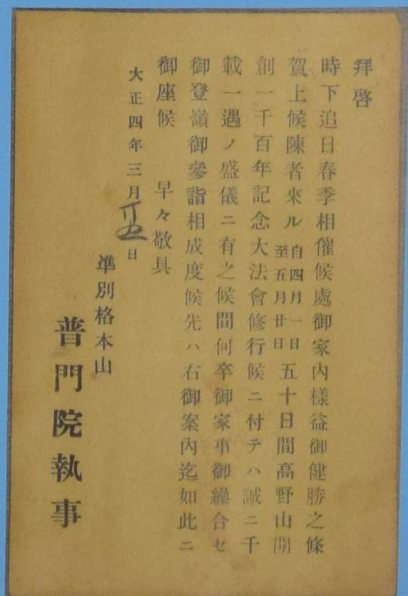


文書番号 5344
〔当春記念大法要にて当院事業一万体阿弥陀如来建立の件、募集金受け取りならびにご助力のお礼、記念章・御札・受領書等送呈予定につき書状〕
大正 4 年（1915）2 月 14 日
差出：普門院執事（印） 宛先：岩崎富三郎・猪川六郎・岩崎恒太郎

高野山開創 1100 年の大正 4 年（1915）、高野山での記念大法會をはじめ、各寺院でも記念事業が行われました。

文書番号 5344 によれば、普門院では記念事業として一万体の阿弥陀如来を建立するために募金をしており、岩崎富三郎らは計 22 円を寄付しました。この手紙は寄付のお礼と、記念章、御札などを送る旨を述べたものです。

5977-20 は、50 日間の開創 1100 年記念大法會開催を案内する葉書です。「千載一遇ノ盛儀」は決して誇張でなく、非常な盛況を呈したようで、翌年も記念臨時大法會が行われたほどでした。



文書番号 5977-20
〔高野山開創一千百年記念大法會修行のため御参詣なりたくにつき通知〕
大正 4 年（1915）3 月 25 日 差出：普門院執事 宛先：岩崎富三郎